

# 日本企業の採用が増加中！ Amptストリングオプティマイザ が モンゴルで活躍！

電力変換技術の分野で世界トップをひた走るAmpt。同社の主力製品「Amptストリングオプティマイザ」の発電量アップの性能が認められ、世界で続々と発電所への導入や販売の取り扱いが決まっている。

取材・文／大根田康介

モンゴルの農場で  
10 MW超の導入

アメリカに本社を置き、北米、ヨーロッパ、中東、そしてアジアで事業を展開しているAmptは、太陽光発電市場を変革すべくメガソーラーの性能アップとコスト削減を目標としたDC/DCコンバータ「Amptストリングオプティマイザ」を展開している。これは、特許技術であるストリングストレッチ<sup>®</sup>とAmptモード<sup>®</sup>に加えて、2つの入力、各PVストリングにそれぞれ最大出力点追尾トラッカーを設け、電圧/電流の制限機能を設定して直流出力電力を最大限にした。各PVストリングは、セントラルインバータ、またはストリングインバータのいずれかにより設定された電圧で、最大電力を供給できるようにする。また、システム設計者はストリング当たりのモジュール数を2倍に増やせるようになり、DC/AC比率を2.1以上にできる。そのため、従来のシステムと比較すると最大70%の発電量増加が見込める。こうしたことから、PVシステムのコスト削減と性能向上を実現し、投資対効果（ROI）も高められるのだ。

既設メガソーラーにも導入  
日本企業の採用が続く

日本でもいち早くAmptオプティマイザの性能に気付き、販売の取り扱いを決めた企業がある。再生可能エネルギー設備の効率を10%改善することを目的に、2016年4月に設立された大豊G&N（東京都品川区）だ。Amptオプティマイザは2016年10月以降に順次導入され、その発電所数は15ヶ所となり、合計設備容量は21.2 MWに上る。将来的に18ヶ所、合計設備容量



開所式には、駐モンゴル日本大使も出席（写真左から2番目）。日本とモンゴルの友好関係の強化につながった。

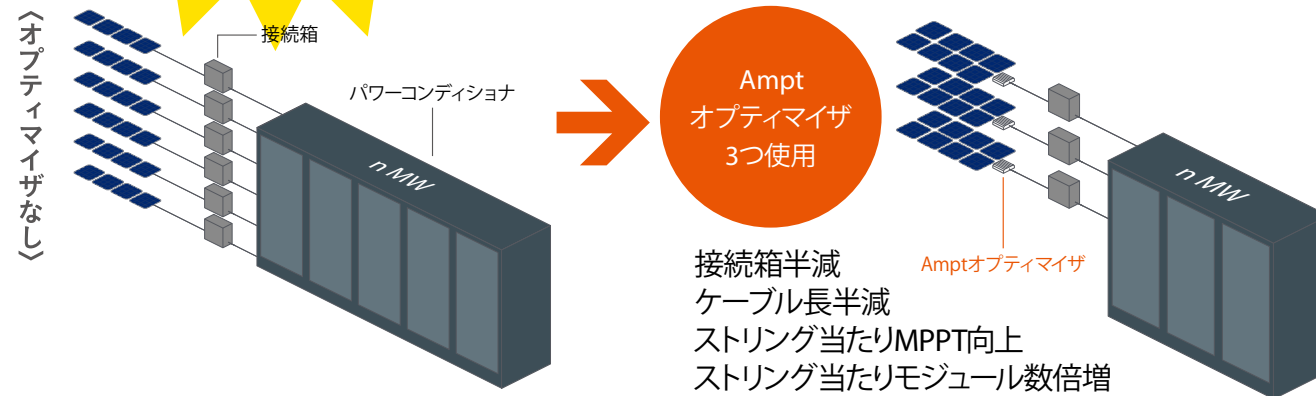


発電容量12.7MWの大規模太陽光発電所。発電所の一部では、背の高い高架を使用してソーラーシェーディングを実施。農作物の収穫も行う。

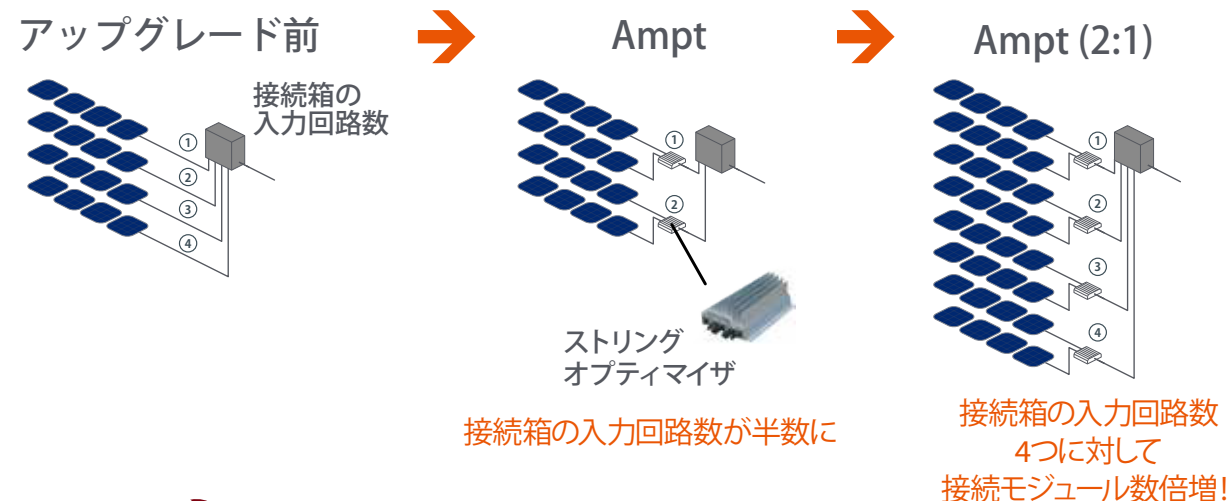
量44.5 MWの発電所で導入が予定されている。なぜこの製品を取り扱うことにしたのか？「日本国内の既設のメガソーラーにフィットした商品だった。当社が展開するPVブイスタ製品群の中心商品として採用した」と、大豊G&N再生可能エネルギー事業部の原マネージャーはコメントする。償却計算も含めて提案した結果、実際に導入した顧客の満足度も高いようだ。今回、そんな優れたオプティマイザの導入を決めた企業が、ソーラーファーム事業を展開し、日本の農業界で活躍するファームドゥだ。自社運営する太陽光発電所の下、土地を有効活用して野菜を栽培する農場がソーラーファームで、日本国内を含め合計約40 MWを運営している。今後は100 MW程度まで建設していく予定だ。ソーラーファームの海外事業の第1号案件（モジュール12.7 MW、パワコン10 MW）にも大豊G&Nが販売した。ファームドゥとモンゴルの現地企業との合弁会社を設立し、二国間クレジット制度（J-CM）を活用したプロジェクト設備補助事業として展開する。Amptは世界でナンバーワンのおプティマイザメーカーになるべく突き進んでいる。

## パワフルな発電所を構築する Amptストリングオプティマイザ

ストリング当たりのモジュール数が多い発電所



DC/AC比を高めて発電量UP!



アンプトジャパン合同会社  
神奈川県横浜市港北区新横浜3-6-12 日総第12ビル10階  
045-565-9977 www.ampt.com